

卑彌呼と日本書紀

目次

第一章 奈良時代の学者も知っていた女王（卑彌呼）……………13

一・一 『魏志倭人伝』の二つの謎 15  
 一・二 《邪馬台国》九州説と大和説 20  
 一・三 『記紀』と『魏志倭人伝』 24

第二章 〈卑彌呼〉とは誰か？……………31

二・一 〈天照大神〉説 33  
 二・二 〈神功皇后〉説 41  
 二・三 〈倭迹迹日百襲姫命〉説 45  
 二・四 『記紀』に記されていない〈卑彌呼〉存在説 53

第三章 『魏志倭人伝』の概要……………57

三・一 議論の少ない対馬から奴国まで 59  
 三・二 議論百出の奴国から先 65  
 三・三 風俗・習慣・制度 72  
 三・四 〈卑彌呼〉の時代の東アジア 76

三・五	〈卑彌呼〉以後の東アジアと日本の安全保障	83
三・六	謎の多い七つの対魏外交記録1——景初三年——	88
三・七	謎の多い七つの対魏外交記録2——正始元年から泰始二年まで——	93
三・八	果たして殺人事件か〈卑彌呼〉唐突の死	98
三・九	『魏志倭人伝』成立の経緯	104

第四章 『魏志倭人伝』の信憑性

四・一	又聞き <small>シンビョウセイ</small> の信憑性	111
四・二	地理的な信憑性 <small>シンビョウセイ</small>	117
四・三	シナ正史自体の信憑性 <small>シンビョウセイ</small>	130

..... 109

第五章 〈卑彌呼〉という名の探索

——併せて册封体制からの独立と国名および天皇号——

..... 135

五・一	『記紀』のどこを切っても出てくる〈卑彌呼〉	137
五・二	〈倭〉と〈大和〉の語源 甲類乙類の違い	143
五・三	〈大和〉の地理の概略	151
五・四	〈日本〉と「天皇号」の由来	160
五・五	『魏志倭人伝』の信憑性についての結論	166

第六章

〈天照大神〉<sup>アマテラスオオミカミ</sup> 説の検討

六・一	〈天照大神〉と「天の岩屋」 <sup>アマテラスオオミカミ</sup> 171
六・二	出雲の国譲りと天孫降臨 <sup>イズモ</sup> 176
六・三	初代神武天皇の東征物語 <sup>ジヌムテンノウ</sup> 183
六・四	〈饒速日命〉の帰順と狭井川の恋歌 <sup>ニギハヤヒノミコト</sup> 188
六・五	神武天皇の即位と崩御 <sup>ジヌムテンノウ</sup> 195
六・六	「天の岩屋伝説」は果たして日蝕神話か <sup>アマ イワヤ</sup> 202
六・七	古代の日蝕と『記紀』の実紀年 <sup>ニッシヨク</sup> 207
六・八	〈卑彌呼〉 <sup>ヒミコ</sup> Ⅱ 〈天照大神〉 <sup>アマテラスオオミカミ</sup> 説の確からしさ 214

第七章

〈神功皇后〉<sup>ジングウクウゴウ</sup> 説の検討

七・一	第十四代仲哀天皇の悲劇 <sup>チュウアイテンノウ</sup> 223
七・二	朝鮮の史書『三国史記』と『好太王碑』 <sup>コウタイオウヒ</sup> にのこる 〈神功皇后〉 <sup>ジングウクウゴウ</sup> の事績 230
七・三	男装の〈神功皇后〉疾風怒濤の海外遠征 <sup>シツブウドトウ</sup> 236
七・四	『好太王碑』 <sup>コウタイオウヒ</sup> 碑文による三韓征伐の確認 <sup>ギンワジンデン</sup> 244
七・五	謎の多い 〈神功皇后〉東征伝説と『魏志倭人伝』 <sup>キシワジンデン</sup> からの引用 248
七・六	任那日本府の設置と新羅との軋轢 <sup>シラギ</sup> 254
七・七	七枝刀の献上と〈臺與〉 <sup>トヨ</sup> の時代の使者派遣 <sup>オウジンテンノウ</sup> 258
七・八	八幡宮の祭神になった第十五代應神天皇 <sup>ハチマングウ</sup> 265

七・九	論語の到来と船団の炎上	そして高句麗国書の破棄事件	271
七・十	應神天皇の崩御と〈神功皇后〉の实在性		278
七・十一	《石上神宮》の七支刀——〈神功皇后〉実紀年の推理——		284
七・十二	『魏志倭人伝』との奇妙な一致	296	
七・十三	〈卑彌呼〉    〈神功皇后〉説の確からしさ	301	

第八章 〈倭迹迹日百襲姫命〉が活躍する崇神天皇の時代 …………… 311

八・一	大和朝廷の實質的な創始者？ 第十代崇神天皇の即位	313	
八・二	崇神天皇の《三輪山》進出と苦難のはじまり	319	
八・三	崇神天皇を教え導いた〈倭迹迹日百襲姫命〉の神託	325	
八・四	《三輪山》と《大神神社》1 —— その格式と山の辺の道 ——	333	
八・五	《三輪山》と《大神神社》2 —— 千古の謎を秘めた三ツ鳥居の奥 ——	341	
八・六	《三輪山》と《大神神社》3 —— 『記紀』にみる三輪一族の人々 ——	352	
八・七	《三輪山》と《大神神社》4 —— 磐座と祭神の謎 ——	358	
八・八	〈倭迹迹日百襲姫命〉の未来予知と奇怪な急死	そして四道將軍の派遣	367
八・九	稻荷山刀銘による四道將軍派遣の史実性の検討	ならびに出雲・任那との関係	375
八・十	「非時の香菓」を求めた第十一代垂仁天皇の物語	384	
八・十一	悲劇の王 日本武尊が活躍する第十二代景行天皇紀	394	

第九章

〈倭迹迹日百襲姫命〉と《籠神社》の秘密

——文献史料でみる《邪馬台国》大和説——

.....  
405

九・一 〈倭迹迹日百襲姫命〉の親族 407

九・二 〈卑彌呼〉Ⅱ 〈倭迹迹日百襲姫命〉説を初めてとなえた笠井新也 414

九・三 笠井新也説を学問的に深めた肥後和男 420

九・四 〈倭迹迹日百襲姫命〉という奇妙な名の意味と別名 428

九・五 『倭姫命世記』に記された《伊勢神宮》への遷宮経路 433

九・六 《大和》を離れた最初の元伊勢《籠神社》の神宝 439

九・七 《籠神社》が千年以上秘匿した秘宝『勘注系図』の謎 447

九・八 『勘注系図』にある驚くべき〈倭迹迹日百襲姫命〉の尊称 456

九・九 『勘注系図』と〈卑彌呼〉についての二、三の推理 465

九・十 「三種の神器」の謎について 471

第十章 〈倭迹迹日百襲姫命〉が眠る

日本最古の「超巨大」前方後円墳《箸墓》の謎

——併せて《大和》に展開する雄大な《纏向京》——

.....  
483

十・一 《邪馬台国》の有力候補地《大和》の地理と地勢 485

十・二 「唐古・鍵遺跡」と《纏向京》の地勢と時代 494

十・三 《纏向京》周辺の主要地域 502

	十・四	遺跡の木材の伐採年を確定する「年輪年代法」	507
	十・五	「年輪年代法」の衝撃と編年表の大修正	514
	十・六	《纏向京》に集中する「祖型および前期」前方後円墳の概観	520
	十・七	国家の黎明を告げる古代の都《纏向京》1 — その自然と祭祀 —	531
	十・八	国家の黎明を告げる古代の都《纏向京》2 — その都市構造 —	538
	十・九	《纏向京》にある「祖型」巨大前方後円墳の概要	544
	十・十	《纏向京》のシンボル 日本最古の「超巨大」前方後円墳《箸墓》の謎1 — 形状と造営の経緯 —	554
	十・十一	《纏向京》のシンボル 日本最古の「超巨大」前方後円墳《箸墓》の謎2 — 造営法と出土品 —	563
	十・十二	《卑彌呼》Ⅱ 《倭迹迹日百襲姫命》説の確からしさ	569
あとがき		.....	577
文献		.....	579
付録		.....	598

---

卑彌呼と日本書紀

---